



## ジュニア大使友情使節団

～パラオ班、実り多く帰国～

第31回春期ジュニア大使友情使節団パラオ班に参加した団員の感想文を抜粋紹介する。(関連記事、本誌4月号)

「笑顔の力」

はっとり ゆうじ  
服部 祐史  
東京都・学習院中等科3年

三日目、夕方。小中学校での楽しい時間を過ごした私たちは、ついにホストファミリーとの対面を迎えた。レストランで待機している僕たちの前に、一人、またひとりとホストファミリーが座ってゆく。どの家庭になるのかな。あの人は優しくさうだし、あの子と一緒に話すと楽しそうだな。どの家庭になるのか分からないまま、段々とホストファミリーが増えていく。この時間は、とても緊張したと同時に、たまたま楽しかった。僕がお世話になることになったのは先程訪れた小中学校の先生のお宅。できれば子どものいる家庭が良いなあと思っていた僕は、その時一

人で来ていたお母さんを見て少し残念だったが、車の中でほとんど僕と同年齢の子どもがいることを知り、うれしくなった。それぞれの家庭に引き取られていく僕たちをホストファミリーの方々は温かい笑顔で迎え入れてくれた。おかげで僕たちは、何の抵抗もなくホストファミリーに馴染むことができた。

その次の日の夜、日本から来た子がいるということ、近所のPHS(パラオハイスクール)の生徒が五、六人くらい僕のホームステイ先に集まってきた。初対面の同年代の男女と話すのはとても緊張したが、そこでもまた笑顔に救われた。まるで元から友達だったかのように自然と会話が弾む。異国の同年代の子たちと過ごす時間は非常に新鮮で、貴重なものだった。みんな日本に対して良いイメージを持っている。高校では日本語の授業をとっている子もいた。みんな日本にとっても

興味をもっていて、ずっと質問攻め。

おかげであつという間に時間が過ぎ、気がつけば三時間が終わっていた。飽きずにこんな長時間話していたということが、自分でも信じられなかった。

今回パラオでいろいろな人と接したが、どこに行っても笑顔が絶えることがなく、笑顔のおかげで心の距離をグッと縮めることができたような気がする。たとえあまり言葉が通じなくとも、表情一つで友達になれる。心を通わせられる。そんなパラオの人たちの笑顔に、僕は感動した。パラオの文化や歴史を知ることは良かったと思うが、それ以上に笑顔の力の強さを学べたことは大きな成果だった。

人間は生まれつき、笑顔という世界共通の言語をもっているのだ。そのことを肝に銘じて、日本だけではなく、いろいろな国の人々と接したいと思った。貴重な体験ができたことに感謝したい。

## 第32回夏期ジュニア大使友情使節団 米国シアトル班 団員募集

当協会では、今夏実施する「ジュニア大使・米国シアトル班」の参加者を募集しています。本事業は多感な子どもたちが国際社会への理解や外国語への関心を深め、様々な文化に接することを通して正しい国際感覚を身につけ、立派な国際人材として育ててほしいとの願いから実施し、今年度で32年目を迎えます。これまでのべ3,731名の青少年が研修に参加しています。

- 実施機関：一般社団法人国際フレンドシップ協会
- 後援：米国ワシントン州政府
- 研修期間：8月1日(月)～8月11日(木)
- 参加資格：中1以上の健康な男女生徒(20歳未満)
- 参加人員：15名(定員になり次第締め切ります)
- 参加費用：59万4千円(空港諸税他別)
- 応募方法：「応募用紙」を下記HPよりダウンロードの上、応募
- 応募締切：5月30日(月)
- 募集説明会：5月15日(日) 東京

■問合せ先：一般社団法人国際フレンドシップ協会 担当：小林、草場、西木、及川  
TEL 03-3582-3021、FAX 03-3582-3010  
E-mail: junior-ambassadors@ifa-japan.org URL http://www.ifa-japan.org

## 世界万華鏡

“第31回春期ジュニア大使友情使節団パラオ班”

団員が見たパラオ

### ●3月29日(火)

今日は、私にとって、初めての団員との顔合わせでした。最初はみんな緊張していて、静かで、これから上手くできるか心配でした。けれど、自己紹介をした後の事前研修では、英語の練習や文化紹介の歌の練習で緊張も解きました。挨拶の役割分担やパラオの歴史を知る事で、これがただの観光ではなく、研修であり、きちんと学んでいかなければいけない、使節団の一員であるという自覚を持つことができました。

### ●3月30日(水)

今日はペリリュー島とカーブ島に行きました。途中、目にした戦争当時の物にびっくりし、戦争の怖ろしさがよく分かりました。戦争博物館で見た、魂が抜けたみたいに立っていたアメリカの兵隊さんの絵が衝撃的でした。カーブ島ではサンゴなどを間近でみる事ができ、めったにできない体験ができました。

### ●3月31日(木)

今日は、パラオの小中学校を訪問しました。パラオの同年代の子どもと触れ合える良い機会でもとても楽しみにしていました。パラオの小中学校の校舎

は日本のように複数階建ではなく、平屋が何軒も建っていました。まず、最初に驚いたのは、教員室です。日本のようにビリビリした緊張感は微塵もなく、それどころか陽気な雰囲気でした。それはパラオの国民性を表しているようでした。目が合うとウインクしてくれたり、とても過ごしやすかったです。



### ●4月1日(金)

今日は、国会議事堂と日本大使館に行きました。私が印象に残ったのは、ホストファミリーと一緒に海に出かけたことです。とても夕日がいっぱいで、海と山と夕日が重なる絶景でした。その後、市場に行き、夕飯を食べました。肉や魚の料理がたくさん売られていて、パラオ人の大好きな甘すぎるケーキもありました。とても楽しい雰囲気です。

然と会話が生まれ、ホストファミリーとたくさん交流し、仲良くなれました。

### ●4月2日(土)

今日はホストファミリーとの最終日でも楽しい思い出が出来ました。私は、パラオの伝統として有名な「ベイビーシャワー」の儀式に連れて行ってもらいました。そこでは、歌やダンスの披露があり、とても賑やかでした。ホストファミリーとの思い出は一生忘れません。次はホストファミリーのみんなに日本へ来てもらい、日本の伝統や習慣、文化をたくさん教えてあげたいです。

### ●4月3日(日)

今日は、パラオから日本へ帰り、空港で解団式をしました。参加証授与があり、みんな笑顔で受け取っていました。使節団は始めも終わりも挨拶を大切にしていたのが印象的でした。

(参加者日誌より抜粋、校正：編集)

平成28年4月17日発行  
一般社団法人 国際フレンドシップ協会  
〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-12  
麻布台ロイヤルプラザ703  
発行責任者：及川 伊佐子  
編集：事務局 03(3582)3021  
印刷：音和堂印刷